

公務員ワークショップ

県立大短大部学生が体験

行政の立場になり、10年後の自治体を想像しながら、事業の廃止などを決めるワークショップ「S1」が1日、松江市浜乃木7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスであり、公務員講座を受講する学生30人が、行政職の業務の一端に触れる機会を得た。

松江市職員の曾田周平さん(27)ら有志10人が、将来を考慮するきっかけになればと呼び掛けた。

2016〜20年と、20



事業の廃止理由を説明する学生たち

M市の将来この事業必要?

25年の松江をモデルにした「M市」が舞台。新規事業を始めるには、既存事業を廃止する必要がある。学生は教育・文化部長など5人の決定者になり、計15事業

からどれを廃止するかを考
え、議員役を説得して理解
を得る。議員が提案を断る
と地方債を発行して事業を
進め、2度発行すると終了
となる。

M城の調査研究事業の廃
止を提案した班は「歴史的
建造物の保全事業で代用
が可能」と提案。議員役か
ら「学芸員の雇用はど
うするか」と質問があり、
悩みながら回答を絞り出
した。

総合文化学科1年の春井
麻里さん(19)は「廃止する
理由を納得してもらおうが
難しい。市の仕事は少し分
かった」と話し、曾田さん
は「楽しく公務員の仕事を
学べたと思う。前向きに將
来を考えてほしい」と願
った。(古瀬弘治)

大学などの内定率
島根86.2%、鳥取89.5%
労働局1月末まとめ

島根、鳥取両労働局は2018年春に島根、鳥取両県の高校、大学などを卒業予定の生徒、学生の1月末時点の就職内定率をまとめた。大学などは、島根県が前年同期比0.5%増の86.2%、鳥取県が0.2%増の89.5%。高校は島根県が0.2%増の94.3%、鳥取県が2.5%増の97.6%だった。

大学などは、島根県が就職希望者2048人に対し、内定者が1765人。鳥取県が希望者2058人、内定者1841人だった。島根県の内訳は、大学・大学院が1.0%増の89.9%、短大・高専が2.5%増の84.8%、専門学校・職業能力開発学校が1.0%減の82.1%だった。鳥取県は大学・大学院が0.4%増の90.7%、専門学校が1.4%減の83.4%。短大と高専は1校ずつしかないため、非公表とした。

高校は、島根県が就職希望者1376人に対し、内定者が1298人。鳥取県が希望者1190人、内定者1162人だった。鳥取県の内定率97.6%は、記録が残る1994年以降、同時期として過去最高だった。(片山大輔)

県立大保育学科 定員あり方検討

島根県、議会議案に案提示

島根県が8日、県立大(本部・浜田市野原町)第3期中期目標(2019、24年度)の案の骨子を県議会総務委員会に提示した。

2018年度に四年制化する松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)で短大部として存続する保育学科に關し、定員を必要に応じて見直す方針を盛り込むか、検討するとしていた。

県は、定員が現行の50人

から40人に減った同学科の18年度の志願倍率が3・75倍で、前年度に比べて1・53倍上昇したと報告。民主県民クラブの須山隆議員は「必要は高いとした上で、必要性を含めて定員のあり方の検討を中期目標に盛り込むよう求めた。」

これに対し、私学・県立大学室の高宮正明室長は「意見を参考に検討した上で6月議会で素案を提出したい」と述べた。

同学科は県議会から短大需要があるとの指摘を受けて存続した経緯があり、清原正義理事長兼学長は存続の判断は「正しかった」との見解を示し、定員のあり方は「ニーズを分析した上で、時間をかけて考える」としている。

(尾添大介)

学生考案事業 成果を発表

県立大短期大学部報告会

松江

県立大短期大学部の学生が考案した事業に大学側が経費を助成する「キラキラドリームプロジェクト」の報告会がこのほど、松江市浜乃木7丁目の同学部松江キャンパスであり、3団体



成果を報告する学生たち

が成果を発表し、経験を実社会で役立てることを誓った。

学生の自主性や創造性を養おうと毎年実施しており、5回目となる。今回は最大22万円のドリーム枠に1件、最大10万円のキラキラ枠に2件が採択された。

ドリーム枠の小森夕子さん(19)「総合文化学科1年」らの班は、関西地方で行った島根のPRイベントの様子や反響を報告。「イベントを開く難しさを感じたが、もっと島根について知りたいと思った」と振り返った。

キラキラ枠で、牧南花さん(19)「同1年」らの班は、島根の魅力を紀行文にして冊子にまとめたとして「一人で抱えず、友人に頼ることができるようになった」とした。山田理乃さん(20)「同2年」らの班は、卒業後の進路の選択肢を増やすため、社会人を招いたイベントを行った取り組みを伝えた。

岸本強副学長は「短期間で大きく成長したことが分かった。将来に生かしてほしい」と話した。

(古瀬弘治)



清原正義理事長兼学長（左）から卒業証書を受け取る卒業生

松江

県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の卒業式が15日、同学部松江キャンパスであり、保育や栄養など3学科の232人が社会への一歩を踏み出した。

清原正義理事長兼学長・9%。22人が四年制大

希望胸に232人巣立つ 県立大 短大部

が健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の各代表に卒業証書を授与し、都市と地方の均衡ある発展が必要として「皆さんのような若者の力が原動力として期待されている」と激励した。

卒業生を代表して総合文化学科の加島彩華さん

（20）が「この2年間で世界が広がった。培った知識や技術、経験は自信と支えになる」と述べた。

短期大学部によると、就職が決まった卒業生は15日現在、前年同期に比べて24人多い188人、内定率は12・1%高い94%。22人が四年制大

学などに進学する。短期大学部は18年度、四年制の人間文化学部（定員110人）と、四年制で出雲キャンパスに移す看護栄養学部（同40人）に再編し、短期大学部は定員を80人に縮小して存続させる。

（勝部浩文）

副理事長に松尾氏 島根県立大

島根県立大（浜田市野原町）が23日、3月末で任期満了となる小池律雄副理事長（62）の後任に、県総務部長の松尾紳次氏（59）を選んだと発表した。任期は4月1日から3年で、松尾氏は3月末で県を退職する。

また、同大松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）の副学長は、短期大学部副学長の岸本強氏（61）が兼ねる。短期大学部長には、4月に同部教授に採用する植草学園大学（千葉市）の宮下裕一教授（55）を起用。人間文化学部長には岩田栄作教授（54）が就任する。

出雲キャンパス（出雲市西林木町）の看護栄養学部長には、現看護学部長の梶谷みゆき教授（59）が就く。

（鎌田剛）

ルに毎年出場し、地域の文化祭や福祉施設でも演奏を続けている。20代のUターンの受け皿になっている点も評価された。

代さんは、ピアノ伴奏者として県内外のリサイタルなどに出演。「県民手づくり第九コンサート」の練習や裏方のとりまとめを行うほか、県立大学短期大学の非常勤講師として後進の育成に貢献している。

(多賀芳文)

出雲交響吹奏楽団と ピアニスト代さん表彰

県文化奨励賞

創作や発表活動に積極的に取り組む個人・団体をたたえる県文化奨励賞の授賞式がこのほど、松江市殿町の県庁であり、出雲交響吹奏楽団一線(出雲市)と、松江市のピアニスト代香織さん(49)が藤原孝行副知事から表彰状を受け取った。

出雲交響吹奏楽団は、2009年創設した社会人の楽団。全国吹奏楽コンク

高校の就職内定 高水準

2月末まとめ 島根97.9%、鳥取98.6%

島根、鳥取両労働局が29日、山陰両県の高校、大学などの2月末の就職内定率を発表し、高校で島根県は97.9%(前年同期比0.4ポイント増)、鳥取県は98.6%(同0.9ポイント増)の高水準となった。景気回復に伴う県内外企業の求人増加から、島根は記録がある1996年以降2番目、鳥取は95年以降で最高だった。大

学、短大、専門学校などは島根88.9%(同0.6ポイント増)、鳥取94.7%(同1.0ポイント増)となった。高校で、島根県は就職希望者1365人に対し内定者1336人。鳥取県は就職希望者1189人に対して、1172人が内定した。大学などは、島根が2037人に対し1811人、鳥取が2009人に対し19

03人が内定を得た。

大学などの内定の内訳は、島根が大学・大学院91.5%(同1.3ポイント増)、短大・高専86.8%(同0.8ポイント増)、専門学校・職業能力開発学校86.5%(同0.4ポイント減)。鳥取は大学・大学院95.5%(同0.5ポイント増)、専門学校90.8%(同1.9ポイント増)で、各1校の短大、高専は非公

表。(小村海)

データを見る

